

地域と子どもの遊び空間

—M市における調査—

教育心理学研究室

大 石 鑫

I. はじめに

子どもの発達にとって、遊びがもっている意義については、今日いかなる心理学者といえどもこれを否定することはないが、それがどのような意義をもっているのかという点については意見の一一致をみている訳ではなく、また十分に明らかにされている訳でもない。

しかしながら、ごく一般的にのべるならば幼児期から児童期にかけての時期の子どもの遊びは、それがまず基本的には集団性のものであることから、社会性や情動面の発達と強く関わりをもっていると考えられている。「役割遊び」や「ルール遊び」と呼ばれる遊びが典型的なものである。さらにそれは「ごっこ遊び」にみられるように、想像を不可欠のものとして含んでおり、それらを通じて、知的な発達と関連しているであろう。さらに、遊びそのものが、一定の地域的条件の中で成立することから、自然や大人の生活について直接、間接に知識を得ていく場となることも重視する必要がある。また忘れてならないことは、遊びは、スポーツなどに典型的に示されるように、身体的な運動能力や、手先の器用さ、体力などを発達させていくことである。

子どもが遊びを通じて発達していくということ、即ち彼らの未来を充実させていくということと共に、現在をも充実させているという面をも忘れてはならないであろう。(井上, 1973)

このようなものとしての遊びの意義は、文化や社会の違いをのりこえて共通しているであろうし、おそらく人類の歴史を通じて変わらなかったであろう。しかし、子どもが大人の世界とは相対的に分離された「子どもの世界」において彼らの遊びを成立させてきたとしても、その形態や内容は、つねに歴史的・社会的な条件を鋭く反映してきたといえよう。遊びにともなっていつも行われ

ている「ジャンケン」に例をとれば、その名称や掛け声は、時代を敏感に読みこんできている。かこ・さとしの研究によれば、昭和の初期には「クロベエ・ベティ・チョビスケ」という表現が流行したという。これは当時のマンガや放送劇の主人公の名前である。戦後の占領下には、「グッドバイ・ハロー・ジープ」が、そして数年前には「グロンサン・パンション・チオクタン」という言い方が流行した。(かこ・さとし, 1975)

遊びは、このようにその内容において、時代的な感覚を宿しているものであると同時に、それは一定の時間と空間において成立するという意味で、子どもの生活時間のありよう(それは、学校をはじめとする教育全体の状況や、大人の労働の形態などに規定されている)や、地域の実態と密接に結びついている。さらに、それは子ども集団のあり方にも深くかかわっている。

はじめにのべたような、子どもの遊びの意義についての認識は、子どもをとりまく文化的な状況、地域のあり方の中に具体化されねばならないであろう。

しかしながら、いわゆる「児童文化」における一定の努力と前進はあるにしても、子どもをとりまく文化は、総体的には、望ましいものであるとは決して言えない。また、子どもの生活時間の変化は、遊び時間の短縮の方へと変化してきているし、その中で、室内遊びの占める割合が増えていることが報告されている。(仙田ほか, 1975. 井上, 1973) 子どもの遊び空間についても、都市化にともなう、面積の絶対的な減少とともに、一層の「人工化」つまり自然的な環境からのへだたりの増加(仙田ほか, 1975), あるいは、モータリゼーションや公害などによって子どもの遊び空間の中に危険がもちこまれてきていること(藤本, 1974. 一番ヶ瀬ほか, 1969)などが報告されている。子どもの集団についても、さまざまな地域子ども会づくりが行われる一方で、各種の塾の増加や、交通激化、あるいは、教育の場におけるいわ

ゆる「差別、選別」は、地域における子どもの交流をますます困難なものとしている。

井上(1973)は、子どもの生活時間という角度から子どもの遊びを検討し、1962年の調査と比較した上で、「遊び場環境の悪化が戸外遊びを減少させてきた」と結論している。

環境デザイン研究所による横浜市における調査では、1955~60年からの十数年間に、子どもの遊び空間が、全体として約1/20に減ってしまっていること、なかでも「自然のスペース」の減少が著しいこと、これらを通して、子どもの遊びの画一化、地域性の喪失が進んでいることが明らかにされている。(仙田ほか、1975)

本研究は、子どもをとりまく環境条件の変化が、子どもの遊びそのものの変化とどのようにかかわっているのかを考えるものとして、「遊び空間」の面から検討を加えることを目的としている。そのさい、東京都M市に例をとって、都市化の急激な進行という問題を軸にして、できるだけ具体的に検討してみたい。

II. M市における遊び空間の概要

M市は、東京都の西南端、都心から急行電車で約40分の所に位置する人口約25万(1975)の典型的なベッドタウンである。市制をしたのは、1958年であるが、戦後の人口推移をみると、1946年に49,317人、1959年に65,526人と、13年間に30%の増加にすぎなかったのが、1960年代に入るや、経済の「高度成長」の中で、宅地開発、大規模団地造成がすすみ、1970年には、20万人を越えるというように、60年代の10年間に3倍化している。このことだけをとってみても、1960年以降の地域の変貌は想像を絶するものがある。この急激な都市化の進行が、子どもの遊び空間に対し、様々な矛盾をシワ寄せしていったことは十分に考えられる。それは恐らく先に述べた横浜市の調査結果をも上まわるものであったかも知れない。

これを裏づけるものとして、市立の公園、児童遊園等に関する統計を示した。(表1, 2)

この資料によれば、子どもの遊び場確保が意識的に追求されたしたのは、ようやく最近になってからだということがわかる。しかしそれでも、市立の施設に限れば、市民一人当たり 1.0m^2 であり、他の施設を加えても、おそらく 2.0m^2 には満たないと思われる。これは、ヨーロッパの諸都市の水準(約 $10.0\text{m}^2/\text{人}$)にははるかに及ばず、国内でも、札幌市の $3.4\text{m}^2/\text{人}$ や神戸市の $3.0\text{m}^2/\text{人}$ (1973)などより少い。つけ加えれば、M市には児童館は1館もない。

表1 遊び場設置数の推移
(「町田市の遊び場一覧表」町田市
開発部公園緑地課 1975.4)

年	公 園	児童遊園	計
34年以前	0	0	0
35(年)	0	2	2
36	0	2	2
37	0	0	0
38	0	1	1
39	0	1	1
40	0	1	1
41	0	0	0
42	0	1	1
43	14	1	15
44	0	1	1
45	1	1	2
46	6	2	8
47	0	0	0
48	9	6	15
49	13	9	22
計	43	28	71

表2 遊び場の数と面積
(「町田市の遊び場」1975)

	数	面 積 (m^2)
公 園	4	
児童公園	39	}
児童遊園	28	27,135.78
計	71	262,051.73
民間施設	75	不 明
公団公社	130(推定)	不 明(注)

(注) 日本住宅公団では、中層住宅(4~5階建)の場合、1戸当たり 7m^2 を公園、遊び場用地に当てている。M市の場合団地の総戸数は、約22,000戸である。これで計算すると、約 $160,000\text{m}^2$ の公園があることになる。

市の中心部は、古くからの商業地として発展してきたおり、その周辺には、アパートや住宅が密集している。道路交通は最もひんぱんである。

やや北には、人口数万人の規模の大団地がある。しかし、ここはもとは農地や山林であったため、団地の周辺には、わずかながら田畠や山林が残っている。

さらに北部には、農業地域が広がっており、交通の便等の理由で、まだ「開発」が進んではいない。逆に、1960年代以降、児童数が減少するというような、いわゆる「過疎」現象を思わせるような状況さえある。

市の南部は、私鉄の新線開通、延長などによって、最近私鉄系のデベロッパーによる大規模な宅地開発が進められてきており、人口が急増している。

このように、M市においては、「高度成長」下の都市化現象が、様々な形で、かつ典型的に現われてきたということが言える。

III. 調査 I

1. 調査の方法

調査 I は、M市のなかから、それぞれ代表的と思われる地域を選び出し、この中に位置する 4 つの小学校の児童を対象に実施した。

1) 調査対象

調査対象は、以下の 4 小学校（市立）の 2 年生と 5 年生各 1 クラスずつである。

E 小学校 市の中心部に位置している。この地域は、いわゆる商住地域であり、人口密度は、6~8,000人/km² であり、これは M 市平均の 2 倍である。公（遊）園は、大きな運動公園 (30,765m²) と小規模な公園 (1,264m²) の 2 ヶ所が付近にあるだけである。空地は少い。また、あっても、ターミナルに近いために駐車場として使用されている。幹線道路が集まっている、裏通りでも車の往来は激しい。

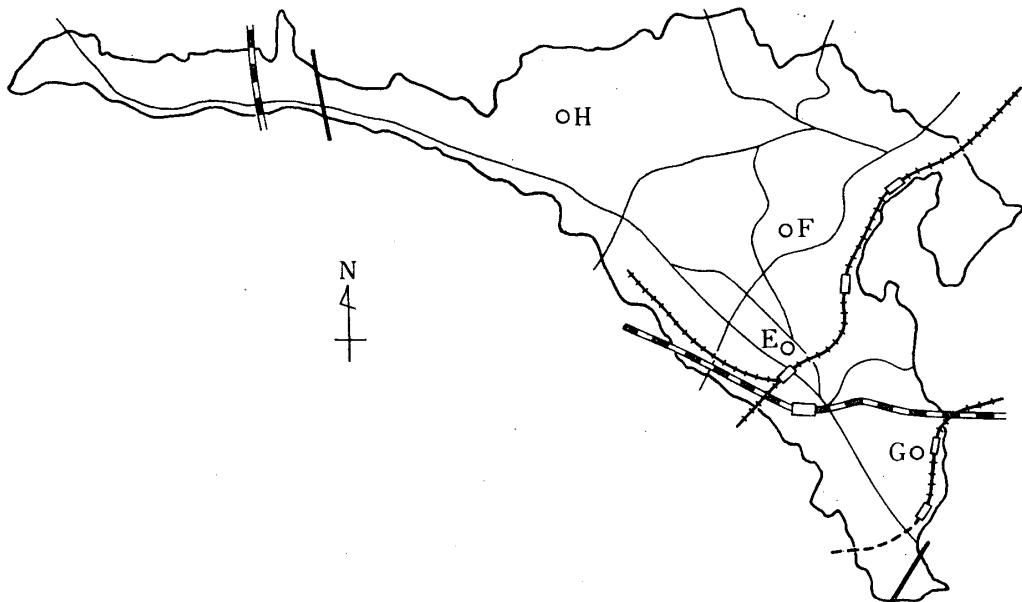
F 小学校 公団団地 (3,435戸) の中にあり、1,000名を越える児童のほとんどは、この団地に居住してい

る。1968~1971年に建設された比較的新しい団地であるために、幼児や小学校低学年児童の人口比が高い。公団設置の小規模な公（遊）園が数ヶ所配置されている他に、近くには、山林を利用した大きな公園 (26,875m²) と、小さい児童公園 (900m²) がある。団地内の道路は、それ程自動車の通行ではなく、また団地のまわりには、田畠や山林が残されている。

G 小学校 市の南端、最近の大規模開発で出現した人口急増地域に位置している。しかし、この地域は、一定の計画開発にもとづいているために、付近に公（遊）園も多く、大きな公園 (7,226m²) が一ヶ所あるほか、1,000~5,000m² の規模の公園や児童公園が 9ヶ所ある。道路交通は激しくない。なお、この地域は、「宅地を 200m² 以下に切り売りしない」「アパートを建てない」などの申し合わせがあるということで、その結果、いわゆる「高級住宅地」となっている。人口密度は 4,000 人前後であり、ほぼ市平均に近い。

H 小学校 市の北部に位置している。古くからの農業地域がそのまま残っており、調査時点の 3 月には、田んぼが遊び場になっていた。山林も多く、市内では最も自然の残っている地域と言える。しかし公園は、いちばん近いものが、学校から 2 km 近く離れた所に 1ヶ所あるだけである。この小学校は、1960年代に入ってから年々児童数が減少し、最近やっと横ばい状態になっている。児童数は、171 名で各学年 1 クラス。市内で最も小さく、逆に学区域は最も広い部類に入って

図 1 4 つの小学校の位置



いる。この地域の人口密度は、 1 km^2 当たり300人前後であり、市平均の1/10にも満たない。

2) 調査の内容

a. 好きな遊びについて (Q 3)

好きな遊びを3つ記入させる。その地域において優勢な遊びの種類を分析するためのものである。

b. 遊び空間について (Q 4)

学校が終わった後、ふだんどんな場所で遊んでいるかについて、リストのなかから二つ選ばせ、その地域における、子どもの遊び空間の状況を分析する。aとbは、互に関連をもつと考えられる。遊び空間のリストは、これまでの調査を参考にしつつ、次のものを呈示した。

- イ. 家の中・庭先 ロ. 公(遊)園 ハ. 空地・原っぱ
- ニ. 道路 ホ. 校庭 ヘ. 社寺 ド. アパートや団地の階段・廊下 チ. 山・田畠 リ. その他 ()

c. 遊び仲間について (Q 5, Q 6)

地域の遊び集団が、学級集団を越えているかどうか、年令を越えた交流があるかどうかを調べる。

d. 前日の放課後の遊びのリストアップ (Q 7)

a. b.について、より具体的に考察するために、調査前日(快晴の平日の翌日を調査日とした)の放課後の遊びの種類、場所、人数について、すべて記入を求めた。

e. TV視聴について (Q 8)

遊びのあり方と深くかかわっているものとしてのTVの視聴状況を調べるために、前日視聴したTV番組をすべて記入させた。従来の研究の中には、TV視聴そのものを遊びとみなしているものもあり(仙田ほか1975)室内での遊びに連続する面もあるので、独自の項目として記入を求めるものである。

3) 調査の方法

授業時間内に、児童に一斉に回答してもらった。所要時間は、15~20分であった。

4) 調査期日

1976年3月5日(金)。

調査の前日(3月4日<木>)は天候は快晴。下校時間は、12~2時の間であった。

ただし、F小学校は都合により、2年生は翌週(3月12日<金>)、5年生は、さらにその次の週の3月16日(火)に調査を実施した。この場合も、ともに前日の天候は、快晴であった。

2. 調査結果とその検討

1) 回収状況

調査票の回収状況はつきの通りであった。

調査票は、明日なミスについて、可能なものはこれを

表3 回 収 数

	2年	5年	計
E	男 女 計	21 18 39	41 35 76
	男 女 計	18 16 34	38 30 68
	男 女 計	17 17 34	35 34 69
H	男 女 計	13 23 36	32 37 69
	男 女 計	69 74 143	146 136 282
	男 女 計	77 62 139	
全			

修正し、修正が不可能な部分を除いた他は、すべてそのまま集計が可能であった。ただし、F小学校の5年生のTV視聴に関する部分は、たまたま番組編成期に当っていて、新番組が始まっていたために、他との比較が不可能となり、これを検討の対象から除かざるを得なかった。

2) 結果の整理

結果を整理するに際しては、男子と女子の差異を念頭において集計した。これは、観察やこれまでの調査から、男子と女子で遊びの形態がかなり異っており、遊び集団としても別々になっていることが明らかであるからである。

a. 好きな遊びについて

この集計に際しては、遊びを①空間的広がり、②参加人数、によって次の4種類に分類した。①の要因に関しては、日本住宅公団の調査が参考になった。

A 最も広い空間を必要とし、メンバーも一番多い。
(5人以上。ふつう10人前後)

走る、投げる等の活発な身体運動を要素としたものが多い。

例. 野球 ハンドベースボール サッカー ドッジボール 鬼ごっこ 陣取り かんけり 泥棒と警察 ロクムシ ナカアテ かけっこ等。

B1 Aよりは狭い空間でも成立し、メンバーは多い。
(3~4人以上。)

各種の身体運動を基本要素としたものが多い。

- 例. ゴムとび なわとび 石けり 馬のり かく
れんば ダルマサンが転んだ タンボ等。
- B2 Aよりは狭い空間でも成立し、人数は B1 よりも少い。(1~3人程度) 活動量は B1 と同程度である。
- 例. 自転車 ローラースケート キャッチボール
バドミントン テニス 卓球 はねつき すもう
マラソン 竹馬 各種の遊具を使った遊び
(ブランコ、すべり台など) 等。
- C きわめて狭い空間で成立し、メンバーも最も少い。(1~3人程度) ほとんどが非活動的なものであり、いわゆる室内遊びがほとんどである。
- 例. ゲーム 絵 工作 読書 (マンガも含む)
人形 (ぬいぐるみ) 遊び ミニカー遊び まと
ごと おしゃべり コマ回し メンコ 動物
(犬猫)との遊び おはじき ピー玉等。
- D その他。分類が困難なもの。不明なもの。
例. さんぽ タコあげ等。

上記の分類にもとづく集計結果は、表4の通りである。

男子と女子を比較すると、男子の場合、70%近くをA群の遊びが占めているのに対し女子では、A, B1, B2の群に三分されている。 $(x^2=123.6 \ df=3 \ P<.005)$ これは男子の場合、野球とドッジボールが最も高い頻度で現われるのに対し、女子の場合は、ゴムとび、ドッジボールが多いということによっている。

2年生と5年生を比較すると、男子では有意な差はないのに対し、女子では、はっきりとした差がある。 $(x^2=.01 \ df=3 \ P<.05)$

表4 遊びの種類 (%) 男子

	A	B ₁	B ₂	C	D	(N)
E	56.0	3.4	18.1	18.1	4.3	(116)
F	57.5	2.7	18.6	16.8	4.4	(113)
G	82.5	3.9	4.9	4.9	3.9	(103)
H	82.3	5.2	7.3	1.0	4.2	(96)
計	68.7	3.8	12.6	10.7	4.2	(428)

表5 同 女子

	A	B ₁	B ₂	C	D	(N)
E	36.3	38.2	13.7	10.8	1.0	(102)
F	33.7	24.7	18.0	19.1	4.5	(89)
G	48.5	10.3	23.7	10.3	7.2	(97)
H	36.0	41.4	19.8	2.7	0	(111)
計	38.6	29.3	18.8	10.3	3.0	(399)

24.9 $df=3 \ P<.005$) 女子の場合は、5年生の方が2年生よりもA群が多く、逆にC群が少い。身体的な成長も関わっているのだろうか。

地域間で比較すると、男子と女子で様相が異なる。男子の場合は、4つの小学校は、はっきりと2分される。すなわち、E小学校とF小学校は、G小学校とH小学校に比して、A群の遊びが少く、逆にB2, C群の遊びの占める割合が高い。(E, FとG, Hの間で、 $x^2=44.3 \ df=3 \ P<.005$)

女子の場合は、4つの小学校の間に目立った共通性はなく、E小学校とF小学校、E小学校とH小学校がそれぞれやや似た傾向をもっている程度である。G小学校は、他と比して差異が大きく、むしろパターンとしては男子に近い。F小学校は、男子の場合と同様、C群の占める割合が高い。(Cに関して、 $x^2=10.17 \ df=1 \ P<.005$)

表6 遊びの種類についての各学校間比較 x^2 表

	E	F	G	H
E		5.7NS	39.1**	5.4NS
F	0.2NS		11.3*	17.5**
G	19.4**	17.3**		25.6**
H	18.2**	16.3**	.00NS	

<男 子>

b. 遊び空間について

ここでも男女差が大きい。 $(x^2=26.35 \ df=7 \ P<.005)$ 特に、女子の場合(イ. 家の中、庭先)が多いことが特徴的であり、全体の40%以上、男子に比べて、1.8倍近い。このことは、aの結果、A群の遊びが女子において少いことと対応している。女子は、以下(ホ. 校庭)(ハ. 空地)(ニ. 道路)(ロ. 公園)が続いている。

男子の場合も、女子と同様に、(イ. 家の中、庭先)が最も多いが、25%に満たない。以下、(ハ. 空地)(ホ. 校庭)(ロ. 公園)(ニ. 道路)と続いている。男子も女子も、ともにこの5つで全体の90%以上を占めている。(表7, 8)

2年生と5年生とを比べると、男子の場合、5年生は2年生よりも、イとロが少くニとホが多い。女子の場合には、両者の差異は小さく、この点でaとは逆になって

図2 地域とあそびの種類

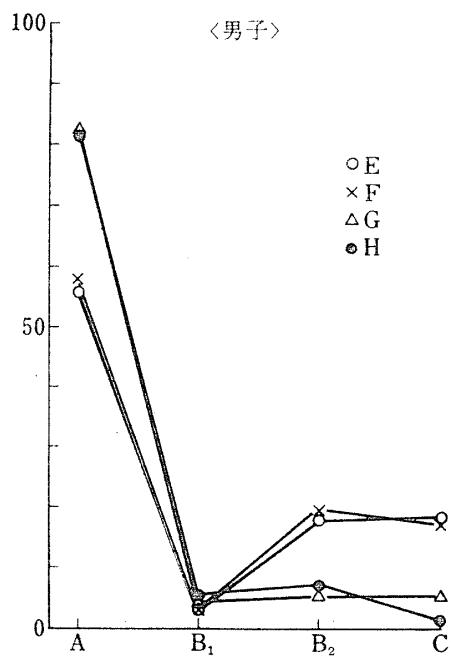


図3 同

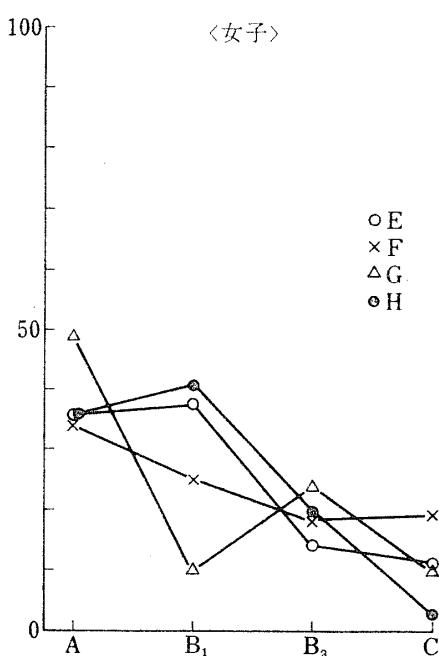


表7 遊び空間の分類（男子）（%）

	E	F	G	H	全
イ. 家 庭	30.5	25.0	20.9	17.2	23.9
ロ. 公 園	18.3	10.5	16.4	1.6	12.1
ハ. 空 地	24.4	30.3	11.9	25.0	23.2
ニ. 道 路	7.3	10.5	9.0	10.9	9.3
ホ. 校 庭	7.3	11.8	35.8	25.0	19.0
ヘ. 社 寺	1.2	3.9	1.5	3.1	2.4
ト. 階段ローク	1.2	1.3	0	4.7	1.7
チ. 山・畑	1.2	6.6	1.5	12.5	5.2
リ. そ の 他	8.5	2.6	3.0	0	3.1
(N)	(82)	(76)	(67)	(64)	(289)

表8 同 上（女子）（%）

	E	F	G	H	全
イ.	40.0	43.3	35.3	48.6	41.9
ロ.	17.1	11.7	7.4	4.2	10.0
ハ.	18.6	20.0	7.4	12.5	14.4
ニ.	15.7	10.0	17.6	1.4	11.1
ホ.	5.7	13.3	29.4	11.1	14.8
ヘ.	1.4	0	0	6.9	2.2
ト.	0	0	0	0	0
チ.	0	1.7	1.5	11.1	3.7
リ.	1.4	0	1.5	4.2	1.9
(N)	(70)	(60)	(68)	(72)	(270)

いる。（男子 $\chi^2=23.30 \ df=6 \ P < .005$, 女子 $\chi^2=9.64 \ df=5 \ NS$ ）このことは、次のように解釈することができるだろう。すなわち、第一には、2年生と5年生の下校時間の差である。一般に、2年生は早く下校するため、そのまま校庭に残って遊び続ける訳にいかないのである。ただ、女子の場合は、もともと家の中や庭先を遊び場とすることが多いので、この要因ははっきりとは現われてこない。第二に、道路交通の危険などから、2年生は、道路で遊ぶことはより少いと考えられるのである。

地域間の比較を行ってみると、下記のことがわかる。

①E小学校は、他の地域に比して（ロ、公園）の占める割合が高く（ロに関して $\chi^2=9.42 \ df=1 \ P < .005$ ）逆に、当然ではあるがH小学校は低い（ロに関して $\chi^2=11.04 \ df=1 \ P < .005$ ）。

②G小学校は、他の地域に比べ（ハ、空地・原っぱ）の占める割合が低い（ハ、に関して $\chi^2=10.09 \ df=1 \ P < .005$ ）。

③E小学校は、他の地域に比べ（ホ、校庭）の占める割合が低く（ホ、に関して $\chi^2=16.06 \ df=1 \ P < .005$ ），逆にG小学校は高い（ホ、に関して $\chi^2=30.70 \ df=1 \ P < .005$ ）。

④H小学校は、他の地域に比べて、（チ、山や田畠）の占める割合が高い（チ、に関して $\chi^2=22.37 \ df=1 \ P < .005$ ）。

E小学校のある地域は、他の地域に比して決して公園が多い訳ではないにもかかわらずこの比率が高いという

ことは、この地域における遊び空間の貧しさを示しているのではないだろうか。しかし、E小学校で(ホ・校庭)をあげている子どもが少いのは一体どうした訳であろうか。また、E小学校の5年生で、(1. その他)の空欄に、「駐車場」と記入したものが3名いたこともつけ加えておきたい。(これは他の地域には1つもなかった。)

G小学校は、公(遊)園に関してみると他の地域と比べて、数、ひとり当たりの面積ともに格段に豊かである。にもかかわらず、日常の遊び場として、これをあげた者の割合は決して多くない。恐らく、これは公(遊)園のあり方がかかわっていると考えられる。つまり、特にこの地域の公園が「美観」優先の構造、つまり、植木や各種の構築物、それにコンクリート舗装などによつて、子どもたちにとっては、きわめて遊びにくい公園になつており、小学生に敬遠されたのではないだろうか。

F小学校は、校区は最も狭い部類に属する(したがって家と学校が近い)にもかかわらず、(ホ・校庭)をあげた者は多くない。また、(イ・家の中・庭先)も多くはないところから、団地の場合・地域全体が、比較的安心して遊べる空間となっているということを示しているのではないか。しかしながら、aの結果では、A群の遊びが少く、B2、C群の遊びが多いことを考えると、小学生が思い切り遊べるような広い空間は乏しいのではないだろうか。ただ、よく言われるような、高層団地の問題性、密室性、高層性による子ども集団の分断というようなことは、小学生に関する限り、あまりないようである。もっとも、団地の場合、家の中で遊びにくい(狭い、階下の部屋への迷惑など)ために外に出ざるを得ないという事情もあるだろう。

c. 遊び仲間について

質問は「自分と同じクラス以外の人と遊ぶかどうか」と「自分より年上や年下の人と遊ぶかどうか」の二つであったが、結果的に、「自分のクラスの人とだけ遊ぶ」と「年が違っていても遊ぶ」の組合せで選んだ子どもが少なからずいた。(全体で11.0%、2年生は、16.1%、5年生は5.8%) 特に2年生の回答については、信頼性が低いとみなし、5年生についてのみ検討をおこなった。

結果を集計すると、80%前後の子どもが、学級集団を越えて、おそらくは地域の遊び仲間をもつてることがわかった。男女差、地域差については、5%でどれも有意差はなかった。

d. 前日の遊びについて

調査日の前日(天候快晴)に、子どもたちが放課後、どんな遊びも、どこで、何人位で行ったかを、思い出せるだけ記入してもらった。その結果一人平均1.9件の遊

びが回答された。このうち、「全然遊ばなかつた」等の理由で記入しなかつたものは、次の通りである。

表8 遊びを一つも挙げなかつた者の割合(%)

	2年	5年	計
E	2.6	29.7	15.8
F	0	2.9	1.5
G	5.9	25.7	15.9
H	5.6	18.2	11.5
全 { 男	1.4	18.2	10.3
女 }	5.4	21.0	12.5
計	3.5	19.4	11.3

男子と女子の間では、この比率にはほとんど差がないが、2年生と5年生を比べると、5年生がはるかに多い($\chi^2=16.23$, $df=1$, $P<.005$)。5年生の20%近くが、前日の遊びに関して全く記入できていない。そしてそのほとんどは遊びらしい遊びをしなかつたことを意味すると考えて差支えないだろう。恐らく、これは学習との関係、例えは塾やお稽古事、あるいは家庭学習などが主たる理由であろう。事実、書きそえられた理由は、ほとんどが、ピアノのレッスンや、塾、自宅でラボテープを聞いていたなどであった。これは地域別にみると、E小学校とG小学校に多く、F小学校は、両学年合わせて1名きりであった。

この項目は、特定の一日の遊びについて調べたものであるために、a・b・cの結果とは必ずしも一致するとは限らないが、それでも一定の対応は見出されると思われる。

あそびの種類についてみると、男子では、A群のものが最も多く、全回答数の42%にのぼっている。その次に多いものがC群とB2群の遊びでありともに25%近くを占めている。aの結果と比較すると、A群が減って、B2、C群が増加している。

地域別に比較すると、aで示されたのと同じ傾向、すなわち、EとF、GとHの間のそれぞれの類似が、aほど明瞭ではないが認められる。

女子の場合には、C群の遊びがもっと多く、36%にのぼっている。以下、B1(25%) B2(19%)となつていて。女子の場合にも、地域別にみると、G小学校は、Aの割合が他の小学校より高く、F小学校は、C群の割合が高い。またE小学校とH小学校の類似が大きい。これらの諸点は、aの結果と対応している。

以上のことから結論できることは、子どもは、現実には、多様な遊びを行つてゐるが、彼らにとって「好きな

表9 遊び場所×遊びの種類(度数)※()内は人数

	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	その他	計
(6) A	0	10	4	3	7	0	24
B1	6	2	3	6	2	0	19
(76) B2	6	12	6	7	4	0	35
C	28	2	0	0	0	0	30
計	40	26	13	16	13	0	108
(6) A	1	7	14	2	8	0	32
B1	3	3	4	0	1	0	11
(68) B2	7	10	3	13	5	8	46
C	59	1	2	2	0	2	66
計	70	21	23	17	14	10	155
(6) A	3	5	7	7	39	1	62
B1	2	1	2	2	7	1	15
(69) B2	7	0	4	2	5	0	18
C	36	0	0	1	1	1	39
計	48	6	13	12	52	3	134
(6) A	5	0	7	0	23	7	42
B1	18	0	1	1	0	1	21
(69) B2	9	0	1	4	4	0	18
C	26	0	0	0	0	0	26
計	58	0	9	5	27	8	107
(146) A	4	16	23	9	60	8	120
B1	3	1	3	1	3	1	12
B2	10	16	12	19	6	6	69
C	61	3	2	2	0	3	71
計	78	36	40	31	69	18	272
(136) A	5	6	9	3	17	0	40
B1	26	5	7	8	7	1	54
B2	19	6	2	7	12	2	48
C	88	0	0	1	1	0	90
計	138	17	18	9	37	3	232

遊び」というのは、この多様な遊びのなかで、人数や空間的な面で規模の大きいもの、活動量の大きいものをあげる傾向があるということである。

遊びの場所についてみると、男子では、bと比較して(家の中や庭先)がやや増えている。

学年間で比較すると、男子の場合、5年生が、(校庭)で遊んだ割合は、2年生の4倍近くにのぼっており、bでのべた推測をうらづけている。

女子の場合では、(家の中、庭先)の割合が男子よりもさらに高く、60%を越えている。bとの比較でも、こ

の項がかなり増えている。

学年間で比較すると、(家の中・庭先)は2年生がやや多く、逆に(校庭)は5年生が2年生の2倍近くにのぼっている。この点は男子と同じ傾向を示している。

地域間の比較を行ってみると、次のような傾向が認められる。

①E小学で一番多いのは、(公園)で、36.5%にものぼっており、これは他のどの小学校よりも多い。

②F小学校は、男子、女子とともに(家の中・庭先)での遊びの比率が、他の小学校よりも高い。

③G小学校の男子と女子、およびH小学校の男子は、(校庭)で遊んだ割合が、他の小学校と比べて高い。特に両校の男子の場合は、(校庭)の割合が、(家の中・庭先)よりも高くなっている。

④E小学校は、逆に(校庭)の割合が他校と比べもっとも多い。

上記の傾向は、②を除いて、bの結果と基本的に対応している。

F小学校の場合は、地域が全体として遊び空間となっているが、思い切って遊べる場がないということが、aにおけるA群の少なさ、B2、C群の他地域に比しての高さから推察されたが、これらのことから、②のような結果として現われたのかも知れない。

人数について検討してみると、男子の場合は、平均規模が、女子の場合の2倍近くの大きさとなっている。(表10)

2年生と5年生を比べると、5年生の方が2年生の1.4倍近い遊び人数となっている。遊びの種類、遊び空間の分類別に平均人数を比較すると、遊び空間の広さと遊びの種類が、遊び集団の規模を媒介にして、深く結びついていることがわかる。(表9参照)もちろん、遊びの内容を規定するものとして、雰囲気や、空間的構造などの質的な側面があることは言うまでもない。

表10 遊び種類別平均人数

	A	B 1	B 2	C	全
男 子	7.9	3.8	2.9	2.3	4.8
女 子	5.5	3.0	2.1	1.9	2.8

表11 場所別平均人数

	イ (家・庭)	ロ (公園)	ハ (空地)	ニ (道路)	ホ (校庭)
男 子	2.1	4.8	4.7	3.2	9.1
女 子	2.1	3.2	4.1	2.4	5.2

※ ヘーチはサンプル数が少いため省略した。

e. TV視聴時間について

TV視聴の平均時間は、表12の通りであるが、全体としてみれば、2年生よりも5年生が、女子よりも男子の方が視聴時間が長い。全体を通しての平均は2.1時間である。これは、井上(1973)の調査結果の、男子123分(2.05時間)、女子116分(1.93時間)とほぼ等しいと言えよう。

表12 平均TV視聴時間(単位:時間)

	2年	5年	全
E	男 1.7	2.1	1.9
	女 1.2	1.9	1.5
	全 1.4	2.0	1.7
F	男 1.7	※	
	女 1.1		
	全 1.4		
G	男 1.6	2.0	1.8
	女 1.4	2.1	1.8
	全 1.5	2.1	1.8
H	男 3.6	3.1	3.3
	女 2.3	2.8	2.5
	全 2.8	2.9	2.9
全	男 2.0	2.4	2.3
	女 1.6	2.2	1.9
	全 1.8	2.3	2.1

※ F小学校の5年生は、曜日が違ったうえ、新番組が多かったために、比較ができなかった。

地域的にみると、H小学校が他地域の子どもとくらべて、視聴時間がきわめて長い。この小学校の2年生のうちには、6時間以上TVを見ている者が4名(約13%)もいた。他地域には、5年生も含めて、1人いたのみであった。逆に、TVを全く見なかたというものは、E小学校で5名(6.6%)、G小学校で6名(8.7%)いるのに対し、H小学校は1人もいない。このことから考えれば、子どもが、どんな場所で主として遊んでいるか、どんな遊びを主としているかということと、TV視聴時間は、直接関係していない。井上(1973)は、TV視聴時間が、子どもの户外遊びの時間と直接の関係がないことを示しているが、今回の調査結果も、これを支持するものと言えよう。

この理由としては、恐らく、TVを視聴する時間は、大方5時以降であり、この調査時点(3月)では、すでに暗くなっていて外では遊べない時間になりつつあるということがあげられよう。(子どもが外から帰ってくる

頃に子ども番組が放映開始されるように、プログラムが編成されていると言うべきかも知れない。)また、特に夕食以降のTV視聴は、家庭内の雰囲気、教育に対する親の関心などが有力な決定因なのであろう。

3)まとめ

今回の調査結果を、地域と子どもの遊びに関してまとめる以下のことと言える。

①公(遊)園は、現状では、多くのものが、小学生にとって遊び易いものとなってはいない。これは、それが狭いことや、狭いにもかかわらず、小学生にとってはあまり興味のわかない各種の施設が多すぎること、さらに各種の禁止事項(ボール投げの禁止、自転車乗り入れ禁止など)が、その主な理由となっているであろう。さらに、公(遊)園までの経路(距離、途中の道路交通状況など)も重要な要因であろう。

②校庭は、広さ、施設の面では、子どもの遊び空間としては、現状では最適の条件を備えているかのように見える。仲間が集まりやすいという事も重要な要因であろうし、学校は周辺の道路交通にも、「通学路」ということで一定の配慮がなされている筈である。実際にG小学校やH小学校などにおいては、遊び空間における校庭の占める位置は大きかった。(G小学校では、校庭で遊ぶ際には、ほとんど規制事項はないということを先生からお聞きした。)しかしながら、E小学校は、遊び空間に関する限り、地域全体としては、貧しい状況であるにもかかわらず、校庭はあまり利用されていなかった。

藤本(1974)は、遊び空間としての校庭の持つ問題を次のように述べている。

(i)一般に禁止事項が多く、(例えば、キャッチボールをしない、一たん家に帰ってから来ることなど)、子どもたちのしたい遊びが許されない上に、遊びの自由が束縛される。

(ii)学校というものの性格上、自由と解放感を本質とする遊びには、何となくきゅうくつなこと。

(iii)広い場所で、多人数で遊ぶことに子どもが不慣れなこと。それについての指導がないこと。

さらに私見をつけ加えるならば、最近の傾向として、各種のスポーツクラブ(少年サッカーチーム、小年野球チームなど)の練習に運動場の大半を占領されてしまっているということも時々あるようである。

学校側が、管理的姿勢をとるか、地域での遊び空間の全体の中に校庭を位置づけて、積極的に子どもに開放していくかによって大きく分かれるようと思われる。

③団地の場合は、一定の地域が全体として子どもの遊び空間となっている場合が多い。(設計者側に予めそ

のような意図もあるのだろう。) しかし、全体として狭いために、小学生が思い切り遊ぶには不十分であることが多いのではないか。

IV. 調査 II (補足)

「居住形態と子どもの遊び空間について」

この調査は、調査 I より早く実施したものであるが、関連する内容をもっているので、補足的に検討を加えた。

1. 調査対象

M市母親学級の参加者。（テーマは「子どもの発達と遊び」、主として幼児を持つ母親を対象。）

2. 調査内容

- a. 居住形態について
- b. 近所の遊び場について
- c. 自分の子どもが普段遊ぶ場所について
- d. 遊びに関する意見

3. 調査期日

1975年2月19日

4. 方法

出席した母親に調査票を渡して、次週に回収。

5. 調査結果とその検討

1) 回収状況

- a の居住形態にそくして、A. 一戸建ての家屋 B. 団地（公社等の集合住宅） C. 民間のアパート D. その他（ ）で分類して示すと表13のようになった。

表13 回収数

A	20
B	23
C	4
D	0
計	47

記入が部分的なものもいくつかあったが、可能な範囲で集計した。

b. 「安心して遊ばせられる場所が、近所にあるか」という問い合わせに対しては、Aの1名を除いて「ある」という回答であった。しかし、「それは、どんな場所か」という質問でリストのなかから自由に選んでもらった結果は、表14のようになった。

また、その場所へ行くには「親がついて行く」か「子どもがひとりで行く」かという質問では、表15のような

表14 安心して遊ばせられる場所

	A	B	C	計
イ. 公園	9	23	3	35
ロ. 空地	6	7	2	15
ハ. 道路	0	0	0	0
ニ. 人家の庭	3	0	2	5
ホ. アパート、 団地の階段 ロウカ	0	0	1	1
ヘ. その他	0	2	0	2

表15 遊び場へどうやって行くか

	自分で	親と
A	9	9
B	20	3
C	3	1
計	32	13

結果が出た。

団地に居住している場合は、他に比べて近所にある安心して遊ばせられる場所として公園をあげている率が高く ($\chi^2=3.97 \ df=1 \ P < .05$)、また、そこへ親がついていかないでも、子どもがひとりで行くことができるという回答が多い。 $(\chi^2=7.44 \ df=1 \ P < .01)$

c. 普段どこで遊んでいるか

表16 普段のあそび場

	A	B	C	計
イ. 公園	1	20	1	22
ロ. 空地	4	2	2	8
ハ. 道路	6	2	0	8
ニ. 庭	10	0	1	11
ホ. 家の中	16	18	3	37
ヘ. アパート、 団地の階段 ローカ	0	0	1	1
ト. その他	0	3	0	3

リストのなかから自由選択してもらった結果は、表16の通りである。

全体として、家の中で遊ばせているケースが多い。ただし、団地の場合は、公園の方が多く、この点で他と大きく異っている。(イ.に関して, $\chi^2=19.49 \ df=1 \ P < .005$)

d. 遊び場についての意見

公園に関するものとしては、「満足している」という

回答が団地居住者に目立った（8件）。そのほか、「大きな子どもが遊んでいて危ない」（4件）、という不満や、設備、広さ、管理が不十分であるという意見が多くかった。

その他の遊び場に関しては、一戸建ての家に居住している母親から「友人が限られてしまう」という不安が多かった（4件）。

サンプル数が多くないので断定的なことは言いにくいが、団地の場合、幼児にとっては遊び空間は、かなりの程度に充足されていると言うことができよう。しかし、公園そのものが広くないために、小学生などと競合してしまうという不満もあるようだ。

団地以外の場合には、途中の交通の危険まで考えに入ると、幼児がひとりで遊びまわることのできる空間は、どうしても屋内か、庭先に限定されてしまうようだ。

V. おわりに

子どもの遊びにとって、地域は、非常に重要な規定因として働いている。マスコミや児童文化、あるいは、教育をめぐる状況が、ある意味で、全国的に均一化、画一化の方向へ向っているとしても、地域は、最後までその意義を失わないであろう。

今回の調査では、このようなものとしての地域に、空間的な構成の面からアプローチを試みた。その中で、これまでに言われてきたような事も含めて、いくつかの点が明らかになった。しかし同時に、地域を「空間」という一つの角度から切ってしまったことによる制約をまぬがれえなかった。それは、地域における大人の意識、生活、地域的な文化状況、教育の状況、子どもの組織などを歴史的背景をも含めて把握していくなかでのりこえられていくものであろう。

末尾ではあるが、本調査に心よく協力して下さった、児童、母親、そして先生方に心からの感謝の意を表したい。

（指導教官 井上健治）

<参考文献>

- (1) アービッド・ベンソン「新しい遊び場」大村他訳 1974 鹿島出版会
- (2) アレン・オブ・ハーウッド卿夫人「都市の遊び場」大村他訳 1973 鹿島出版会
- (3) 市原洋右「児童遊園における子どもの遊び」『人文学報』No.111 東京都立大学 1976
- (4) 一番ヶ瀬康子ほか「子どもの生活圏」1969 日本放送出版協会

- (5) 井上健治「子どもの生活時間と遊び（1）」『教育学部紀要』第13巻 東京大学 1973
- (6) 深谷昌志 深谷和子「遊びと勉強」1976 中央公論社
- (7) 藤本浩之輔「子どもの遊び空間」1974 日本放送出版協会
- (8) 仙田満ほか「横浜市における子どもの遊び環境の調査」（環境デザイン研究所）1975）『住宅と社会』4. ダイヤモンド社
- (9) 日本住宅公团調研資料「児童施設設計、基礎資料作成に関する研究（3）」
- (10) 「統計まちだ」第9号 昭和49年度版 1950
- (11) 「町田市の遊び場一覧」1950
- (12) かこさとし「子どもと遊び」1975 大月書店

付表1 遊びの類種別度数（上=男子、下=女子）

	A	B1	B2	C	D	計
E	36	3	12	8	3	62
	29	1	9	13	2	54
	65	4	21	21	5	116
F	29	2	10	10	3	54
	36	1	11	9	2	59
	65	3	21	19	5	119
G	45	4	1	2	0	52
	45	0	4	3	4	51
	85	4	5	5	4	103
H	27	1	7	1	3	39
	52	4	0	0	1	57
	79	5	7	1	4	96
全	137	10	30	21	9	207
	157	6	24	25	9	221
	294	16	54	46	18	428
E	9	27	11	6	0	53
	28	12	3	5	1	49
	37	39	14	11	1	102
F	12	14	9	12	1	48
	18	8	7	5	3	41
	30	22	16	17	4	89
G	19	8	9	9	4	49
	28	2	14	1	3	48
	47	10	23	10	7	97
H	23	32	13	1	0	69
	17	14	9	2	0	42
	40	46	22	3	0	111
全	63	81	42	28	5	219
	91	36	33	13	7	180
	154	117	75	41	12	399

付表2 遊び空間別度数

	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	ヘ	ト	チ	リ	計
男 E	2年	12	12	13	0	1	0	1	1	42
	5年	12	3	7	6	5	1	0	0	40
	計	25	15	20	6	6	1	1	7	82
F	2	9	6	12	2	4	1	0	2	36
	5	10	2	11	6	5	2	1	3	40
	計	19	8	23	8	9	3	1	5	76
G	2	8	7	2	1	15	0	0	1	34
	5	6	4	6	5	9	1	0	1	33
	計	14	11	8	6	24	1	0	2	67
H	2	7	1	7	2	2	0	2	5	26
	5	4	0	9	5	14	2	1	3	38
	計	11	1	16	7	16	2	3	8	64
女 E	2	16	11	4	4	1	0	0	0	36
	5	12	1	9	7	3	1	0	1	34
	計	28	12	13	11	4	1	0	1	70
F	2	12	6	4	2	8	0	0	0	32
	5	14	1	8	4	0	0	1	0	28
	計	26	7	12	6	8	0	0	1	60
G	2	9	5	4	4	10	0	0	1	34
	5	15	0	1	8	10	0	0	0	34
	計	24	5	5	12	20	0	0	1	68
H	2	22	3	7	1	1	3	0	6	46
	5	13	0	2	0	7	2	0	2	26
	計	35	3	9	1	8	5	0	8	72

調査I

これは——市の小学生の遊びについてのちょうさです。しつもんをよくよんで、おもったとおりにこたえをかいてください。

- あなたのじゅうしょ。
- あなたは、男・女 (○でかこんでください。)
- あなたのすきな遊びはなんですか？ 3つかいてください。

①	_____
②	_____
③	_____

- あなたは、学校がおわったあと、いつもどんなばしょであそびますか？ つぎのなかから2つえらんで○をつけてください。

イ. 家のなかや庭 ロ. こうえん(ゆうえん)

- ハ. あき地や原っぱ ニ. どうろ
 ホ. 学校のうんどうじょう
 ヘ. じんじゃお寺
 ト. アパートや団地のかいだん・ろうか
 チ. 山やはたけ
 リ. その他(どんなところ?)
 5. あなたがふだんあそぶとき、だれとあそびますか？
 あてはまるものを1つえらんで○をつけてください。
 イ. おなじクラスの人とだけ
 ロ. おなじクラスでなくてもあそぶ
 6. あなたは、ふだん自分より年が上の人や下の人とあそびますか？
 イ. あそぶ ロ. あそばない
 7. あなたは、きのう、学校がおわってから、ゆうごはんまでのあいだ、どんなあそびをしましたか？ あそんだばしょ、いっしょにあそんだにんずうもおもいだしてください。いくつかいてもいいです。

あそびの名まえ	あそんだばしょ	にんずう

8. あなたが、きのう、家にかえってから見たテレビばんぐみをおもいだしてせんぶかいてください。

これでおわりです。どうもごくろうさまでした。

調査Ⅱ「子どもの遊び場に関するアンケート」

■住所

■あなたの住まいの形態（ひとつ○で囲んで下さい）

- イ. 一戸建 民間のアパート ハ. 団地（公社等の集合住宅）ニ. その他（ ）

■あなたの子様は 性別（ ） 年令（ ）

■あなたの家の近く（歩いて5分以内）に、自分の子どもを安心して遊ばせておける場所がありますか。（○で囲んで下さい。以下同じ）

- イ. ある ロ. ない

（上の質問に「ある」と答えられた方）

■それはどんな場所ですか。

- イ. 児童公（遊）園 ロ. あき地 ハ. 道路

ニ. 人家の庭 ホ. アパート等の廊下・階段

ヘ. その他（ ）

■そこへ、お子様はどのようにして行きますか。

- イ. 自分ひとりで行く。（又は同年位の友人と一緒に）
ロ. 必ず親がつれて行く。（又は、親以外の年長者が）

■あなたのお子様は、普段は、どんな所で遊んでいますか。（2つ以内選んで○で囲んで下さい）

- イ. 児童公（遊）園 ロ. あき地 ハ. 道路

- ニ. 人家の庭 ホ. 家の中 ヘ. アパート等の階段・廊下 ド. その他（ ）

■そこで主として誰と遊びますか。

- イ. ひとりで ロ. 兄弟姉妹と ハ. 親と
ニ. 友人と

■あなたの家の近くの児童公（遊）園の設備や環境、広さ、管理の状況などについて感じておられる事や、御意見をのべて下さい。

■あなたの子様が、普段最も良く遊んでいる場所について、何か感じておられる事や、御意見を書いて下さい。

どうもありがとうございました。